



大分合同新聞
2023年
10月3日(火)
朝刊 23面

続く暑さ「個人の判断」主流に

「衣替え」に変化



①10月を迎えても夏服で登校する中学生。冬服はわずかだった＝2日、臼杵市江無田、撮影・江藤成吾
②多様な服装で仕事をする銀行員＝2日、大分市王子中町



「衣替え」に変化が起きてい
る。かつては10月に入ると同時
に夏服から冬服に替わるのが通
例だったが、近年は一人一人が
選ぶ方式が主流になった。地球
温暖化で暑さが長引き、服装の
多様化もあって見直しの動きが
広まった。県内の学校や職場で
は「その日の気温や体調に合わ
せて決められる」と歓迎する声
が聞かれた。

臼杵市江無田の北中(2
24人)は2日、ほとんどの
生徒が夏服で登校した。
3年の岩尾彩衣さん(15)は
「また暑いので夏服にした。
それぞれの判断で選べるの
がいい」。

この日の朝は放射冷却の
影響で気温が下がった。3
年の井沢那奈さん(14)は
「家を出たら寒かったので、
冬服に着替えた」と話した。
同校は3年前から移行期
月に行員の服装を見直し
豊和銀行(大分市)は9

移行期間設けぬケースも

た。軽装を促す「クール
ビジネス」の期間設定をやめ、
年間を通して男性はネク
タイ着用を任意に。女性は
半袖・長袖の制服かスーツ
を自由に選べるようにし
た。

同市王子中町の本店では
2日、半袖の男性や長袖の
女性らが同じ部屋で業務を
こなした。人事部の田中豊
明副部長(52)は「服装を強
制することなく、従業員の
多様な価値観を尊重してい
きたい」と述べた。

一方、県警は気温が下
がる時期を見計らいながら一
斉に衣替えをする。夏服、
合服、冬服の3種類があり、
国の規則は10月1日から合
服と定めているものの、各
都道府県警の判断で変更で
きるという。今年は16日を
予定している。

日本気象協会九州支社
(福岡市)によると、県内
の10月の平均気温は上昇し
ており、1993〜200
2年の10年間は18・8度、
直近10年間の13〜22年は19
・6度だった。

担当者は「近年は10月に
入っても暑い日が多い。一
斉に衣替えをするより、個
々人が体温調整ができるよ
うな柔軟な運用が合理的で
はないか」との見方を示し
た。

(安里葉冬、佐藤章史
菅嶋悠)

〔問①〕これまでの「衣替え」は、九州では一般的に何月と何月に行われてきましたか。

6月と10月

〔問②〕臼杵市の北中学校は移行期間もなくし、1年中、夏・冬どちらの制服も認めています。地球温暖化の理由のほか、学校設備の変化を理由に挙げています。何でしょうか。

教室にエアコンが設置されたことで、生徒によって暑さ寒さの感じ方が異なってきたから

〔問③〕地球温暖化によって変化した生活様式やルールはほかにありますか。話し合ってみよう。

※自由記述